

日時：令和8年2月4日（水） 15：00～ 17：20

方式・場所：日本応用地質学会事務局（WEB 併用）

出席（対面）：舩山部会長、宇田川、宇佐美委員（3名）

出席（WEB）：大谷幹事、佐伯、磯部、清崎、菅野、塚本委員（6名）

欠席（委任）：竹村副部会長、堀幹事、塩崎、池見、福田各委員（5名）

不明：太田、山本、島村 各委員（3名） 計 17 名

その他：稲垣顧問（1名）

議事録

1. 部会長挨拶

- ・ 出欠を確認した。
- ・ 新任の宇田川委員と塚本委員に自己紹介いただいた。

2. 令和7年度第5回部会議事録案の確認

- ・ 議事録の内容について確認した。（代理：舩山部会長）
- ・ とくにコメント無く、確定後にホームページにアップする。（担当：磯部委員）

3. 各種報告

1) 部会委員の公募の件（舩山）

- ・ 新任として宇田川委員（千葉県環境財団）が12月17日の理事会で承認された。
- ・ 新任の塚本委員を追加して名簿を更新する。

2) 理事会報告関係（舩山）

①報告

- ・ 応用地形学研究部会の巡検マップについて、学会員に公平な配布方法が検討されている旨報告があった。
- ・ 応用地質技術入門講座（千葉県での地表地質踏査）が実施された件について、報告があった。
- ・ 研究企画委員会の先端技術ワークショップ『ジオ・メリットの未来を拓く：資源・エネルギー。都市をつなぐ応用地質の挑戦』について（3月開催、地熱関係、海底熱水資源など）紹介があった。
- ・ 次年度シンポジウムは、6月19日に東京大学柏キャンパスにて開催予定で、「気候変動」がテーマで予定されている。
- ・ 研究部会次年度予算は、90,000円で計画する旨報告があった。
- ・ 次年度研究発表会は、11月10日に長岡市のアオーレ長岡で開催予定との報告があった。環境地質研究部会からは「ふるさとの石」を発表する予定である。
- ・ 12月14日に開催予定だった都立武蔵野の森公園の「キッズ防災フェスタ」は荒天延期となり、2月11日に開催予定の旨理事会に報告した。研究部会 HP で後援のお知らせについて日程を修正した（再度雨天中止となり、規模縮小して3月20日に実施）。

②議題

- ネパール提案事案（国際応用地質学会での防災コミュニケーション委員会の立ち上げ）について
理事会で対応を検討中で、以下のような意見が出ている。

- ・国際応用地質学会の黄委員会との関係の整理が必要。
- ・分野が広すぎる。
- ・日本応用地質学会の対応として、関係する研究部会が担当するのは困難である。
- ・日本応用地質学会からは、日本で対応可能な何用を提案していくのが良い。

今後、船山部会長から学会での対応状況をメールで共有していく。

- 当研究部会と他部会、小委員会との係わりについて

廃棄物小委員会が5期15年経過し、部会に昇格させる案や、環境地質研究部会のWGに位置付けるなどが出ている（参考に、当該小委員会に参加している磯部委員の現状認識では、当該小委員会は災害廃棄物や土壌汚染に特化しており、幅広い活動をおこなっている環境地質研究部会とは経路が異なるイメージ）。

- 委員公募の継続について

継続中（当部会の後、2月に1名応募あり）。

- 日本地球惑星科学連合大会2026（JPGU）について

環境地質研究部会から再生可能エネルギーについて、市民向け一般セッションで口頭発表を行う予定である。要旨は2月17日〆切で、学会誌連載シリーズを基本に作成する。セッション名は、「気候変動と再生可能エネルギー」。

- ・とくに委員からのコメントはなし。
- ・船山部会長が発表原稿案をパワーポイントで作成し、4月部会で議論する。

3) 学会HPの更新

- ・R7年度議事録を適宜掲載する。
- ・学会誌連載のジオ・メリットシリーズは、印刷会社へのスキャンデータ依頼後、内容を精査し、HPへの掲載を計画する。

4) 他委員会の報告（教育普及、ダイバーシティ等）

とくになし。

4. 再生可能エネルギー連載

- ・JPGU2026大会で発表する。詳細は上記。

5. WG 活動報告

(1) WG 概要

環境地質研究部会 ワーキンググループ 活動状況					
グループ番号	グループ名	担当 ○：リーダー	活動概要	R6計画 2024	R5実績 2023
WG-A	ジオ・メリット研究グループ	○宇佐美委員、清崎委員 ○山本委員、池見委員、佐伯委員 塩崎委員	地域の地質の恩恵や防災上の留意点について、一般市民への啓発活動や地域産業等への貢献に関する研究を行う。	・公園展示の石や建築物石材などの市民への解説 ・公園関係者への防災教育協力	・都立武蔵野の森公園を訪問し、公園展示の「ふるさとの石」の補足解説や防災活動への協力について継続的に意見交換
WG-B	人工構造物研究グループ	○大谷幹事、竹村副部長 磯部委員 ○堀幹事	道路等のインフラや盛土等の人工地層に影響を及ぼす地質条件に関する研究を行う。	・能登半島地震での被害との関係について研究、研究発表会で発表	・「神奈川県の古代東海道」の研究報告 ・盛土規制法の話提供
WG-C	自然環境研究グループ	○船山部会長、竹村副部長、島村委員、佐伯委員	自然環境を活用した応用地質技術に関する研究を行う。		
WG-D	再生可能エネルギー研究グループ	○清崎、船山、宇佐美、塩崎、堀	再生可能エネルギーについて、応用地質分野とかわりのある事項について研究を行う。	・再生エネルギー学会誌連載のまとめ、研究発表会で発表	・令和5年9月9日（土）に神奈川県相模川流域において巡検 ・第12回2023/4月号掲載 海洋エネルギーを利用した発電技術と応用地質 ・洋上風力発電の海底地盤調査について、田中氏（基礎地盤コンサルタント）より話題提供

(2) WG 活動状況

1) WG-A ジオ・メリット研究グループ

①武蔵野の森公園関係（企画、防災支援の件等）（佐伯、宇佐美委員、大谷幹事）

・12月14日に開催予定だった都立武蔵野の森公園の「キッズ防災フェスタ」は荒天延期となり、2月11日に開催予定となった。佐伯委員から企画書の説明があった。以下に当日の動き等を記す。

⇒学会では後援のお知らせを掲載した

⇒10:00 にサービスセンター（公園の北エリア）に集合

⇒当日参加者は、船山部会長、大谷幹事、佐伯、宇佐美、菅野の5名の予定

⇒各自パソコンを持ち寄る。

⇒部会委員に佐伯委員より案内メールを出す。

⇒モニターは2台借りられる。（佐伯委員が最終確認する）

（再度雨天中止となり、規模縮小して3月20日に実施）

・都立武蔵野の森公園では、3月後半に、毎年実施されている府中高校の生徒による「ふるさとの石の丘」の一般市民説明あり、佐伯委員が参加予定。今年度は小平市の博物館の関係者も参加する。武蔵野の森公園から案内が来たら部会委員に共有する。（3月20日に実施され3名が見学した）

- ②「ふるさとの石」解説シート＋日本地質図の進捗状況（佐伯委員、大谷幹事、堀幹事、宇佐美委員、清崎委員、船山部会長）
- ・支部への協力依頼等の状況の説明が船山部会長からあり、中部や関西支部にお願いするにはもう少し具体性があった方が良いのではとの意見が出された。
 - ・また、47 都道府県でまだひとつも作成されていない自治体がある。
 - ・研究発表会までにほぼ完成させ発表していくこととする。
 - ・今後の分担などを以下に記す。
 - ⇒ 栃木、山梨、長野、三重 → 佐伯委員（写真は各委員等から収集したい）
 - ⇒ 岐阜、房州石 → 大谷幹事
 - ⇒ 東京（伊豆七島、新島） → 佐伯委員
 - ⇒ 北海道（かんらん岩、日高石など） → 菅野委員
 - ⇒ 近畿圏の石 → 塚本委員（塚本委員から関西支部の方に問い合わせる）
 - ⇒ 九州の石 → 清崎委員に相談
 - ・学会サーバーに「石の写真」のフォルダを作り、各委員から共有する。
- ③「ジオ・メリット」学会誌アラカルトシリーズのスキニングと精査、リライト
- ・リライトは中断し、当面学会誌連載組み原稿の HP 掲載を進める。
 - ・第 1 回～第 3 回の原稿は入手不可能（当時担当は土木工学社）。それ以降の組み原稿は、学会事務局から日本印刷に依頼中。
- 2) WG-B 人工構造物研究グループ（インフラ、盛土等の人工地層など）
- ・インフラ（海岸隆起と人間活動）の話題提供等（大谷幹事）
- ⇒ 来年度後半から話題提供していく。
- ・人工地層の話題提供等（磯部委員、船山）
- ⇒ 磯部委員から近代の埋め土について話題提供していく。
- ⇒ 船山部会長から再度盛土の話題提供をする。
- ⇒ 土壤汚染の観点も環境地質のテーマとしてある。（宇田川委員が土壤汚染の機関の所属である）
- 3) WG-C 自然環境研究グループ
- ・話題提供等（船山）：特になし。適宜研究を進める。
- 4) WG-D 再生可能エネルギー研究グループ
- ・JPGU 発表予定（前記）
- 5) 各 WG 活動・報告スケジュールについて
- ・船山部会長からエクセル表を用いて、今後のスケジュール予定の説明があった。
- ⇒ WG-A は研究発表会に向けてふるさとの石をまとめていく。その後、都立武蔵野の森公園ふるさとの丘展示の石の解説に移る。ふるさとの石関係の進捗管理は継続して船山部会長が実施する。都立武蔵野の森公園との調整は佐伯委員。ジオ・メリットシリーズ HP 公表準備は船山部会長。
- ⇒ WG-B 及び WG-C は話題提供から進める。
- ⇒ WG-D は JPGU 開催後に今後の進め方を議論する。
- ⇒ 土壤汚染関係の具体の研究テーマは今後の課題とする。

6. 話題提供、巡検等

(1) 巡検

- ・ 関東近辺の「日本酒」に関する箇所などが考えられる。
- ・ 4月の部会で案を持ち寄る。

(2) 話題提供

- ・ 特になし

7. 予定その他

1) 次回研究部会日程

4月15日（水）15：00～17：00

添付資料

資料1 R7 第6回議事次第

資料2 R7 第5回部会議事録（案）

資料3-1 理事会資料抜粋

資料3-2 名簿

資料3-3 キッズ防災フェスタの後援チラシ

資料3-4 委員公募ポスター

資料3-5 IAEG 災害リスク委員会のネパール提案関係

資料4-1 JPGU2026 プログラム

資料4-2 JPGU 環境災害委員会、応用地質学会発表申込要旨（案）

資料5-1 武蔵野の森公園防災フェスタ関係資料

資料5-2 ふるさとの石関係資料

資料5-3 ジオ・メリットシリーズ関係資料

資料5-4 WG 活動計画

その他

以上